

KORR 東京箱根間往復大学駅伝競走

主催 関東学生陸上競技連盟 共催 読売新聞社 特別協賛 日本テレビ放送網 後援 報知新聞社



第90回 東京箱根間往復大学駅伝競走 「その一秒をけずりだせ」

自らの記録に挑戦したが、総合優勝を逃し2位に終わった第89回箱根駅伝。この「完敗」から原点に戻り、一からチームを作りなおす再出発を誓いました。そして新生・東洋大は2013年出雲駅伝、全日本大学駅伝でまたも2位。優勝にあと一步近づけない。リベンジは、この箱根路で。一秒でも前へ、鉄紺の誇りを胸に攻めの走りで戦います。



箱根駅伝のみどころ

往路 1月2日午前8時 スタート 復路 1月3日午前8時 スタート

東京・大手町にある読売新聞社前から神奈川県箱根町芦ノ湖畔までを往復する10区間217.9kmで争われます。今大会で12年連続、72回目の出場となる本学は、4回目の優勝を狙います。

12月10日にエントリー選手16人が発表され、12月29日には各区間10人+補欠者4人の区間エントリーが行われます。そのメンバー変更は往路・復路ともに当日朝のレース開始1時間前までとなっています。陸上競技部のテーマは「その一秒をけずりだせ」。挑戦者として自らの記録に挑み、総合力で箱根駅伝4回目の優勝を狙います。

特設サイト、Facebookで選手を応援しよう!

箱根駅伝に向け、本学WEBサイトに「第90回箱根駅伝」ページをオープンしました。12月10日には、エントリー選手16人をいち早くお伝えします!そして壮行会のような、選手紹介や直前記事など、ここでしか読めない情報を掲載していく予定です。

さらに、東洋大学公式Facebookの「SPORTS 東洋大学」でも、大会当日の速報、応援のようすなどをアップしていきます。皆さんの「いいね!」で、箱根駅伝を盛り上げてください。

特設サイト <http://www.toyo.ac.jp/site/2013-2014ekiden/>

Facebook <https://www.facebook.com/ToyoUniversity>



選手紹介

お題 箱根駅伝へ挑む気持ちをひとことで。

質問

- Q1. この1年、レースを振り返って感じたことは?
- Q2. 監督やコーチから言われた印象的な言葉は?
- Q3. 東洋大チームの強みは?

大津 顕杜 経済学部 経済学科4年 おおつ けんと
Q1. 5大会連続2位が続いているので優勝したい
Q2. お前が流れを変えないといけなかった
Q3. 第88回箱根駅伝で優勝したこと
優勝したい

木田 貴大 経済学部 経済学科4年 きだ たかひろ
Q1. 走っている選手を見て、次は自分も走ってやるといふ思いで応援した
Q2. 速い選手でなく、強い選手を目指せ
Q3. 層の厚さ
チームや親、恩師に、走って恩返ししたい

日下 佳祐 経済学部 経済学科4年 くさか けいすけ
Q1. 2位が続いているので、箱根では後半の走りを意識して優勝したい
Q2. 疲労がある中でどれだけ走れるか
Q3. 層の厚さ
優勝する!

小池 寛明 経済学部 経済学科4年 こいけ ひろあき
Q1. 駒大に2連敗して悔しい。箱根は絶対に負けてはならない
Q2. 頼りにしてるぞ!!
Q3. 部内でのライバル意識が強く、レースでそれが走り出している
箱根までの期間、覚悟を持って戦う

佐久間 建 経済学部 経済学科4年 さくま たける
Q1. 応援して走れない自分が情けなかった
Q2. スタミナあつてのスピード
Q3. 自分よりも速い人と競い合える環境
東北魂!! 箱根は絶対に走りたい!

定方 俊樹 理工学部 機械工学科4年 さだかた としき
Q1. たくさんの方に応援されていることを実感した
Q2. 負けたのは4年生の責任
Q3. 団結力。全員が納得するまで言い合えるところ
リベンジ

設楽 啓太 経済学部 経済学科4年 したら けいた
Q1. すべて2位で終わっているから箱根駅伝では優勝する
Q2. 自覚を持って
Q3. 攻めの走りができる
積極的な走りで優勝

設楽 悠太 経済学部 経済学科4年 したら ゆうた
Q1. 箱根の区間賞が自信になって10000mで27分台を出すことができた
Q2. 気迫が足りない
Q3. 層の厚さ
優勝する

延藤 潤 理工学部 都市環境デザイン学科4年 のぶとう じゅん
Q1. 今年は区間でも総合でも駒大に負けている。箱根では区間賞を獲得優勝する
Q2. お前を使いたい
Q3. ハイレベルな戦いができるみんなと出会えたこと
王座奪還

今井 憲久 経済学部 経済学科3年 いまい のりひさ
Q1. 昨年は直前のケガで迷惑をかけた。悔しさをバネに練習に励んだ
Q2. お前が変われば、学年が変わる
Q3. 個人レベルが高く、層が厚い。そこから生まれる競争意識が強い
お世話になった方々に成長した姿を見せて、感謝の走りをしたい

五郎谷 俊 経済学部 経済学科3年 ごろうたに しゅん
Q1. 今度は自分がメンバーに選ばれ走り、チームに貢献したい
Q2. 一秒をけずりだせ
Q3. 優勝を目指すチームであり、伝統を重んじるチーム
選手として走りで活躍したい

齋藤 真也 経済学部 経済学科3年 さいとう しんや
Q1. 出雲と全日本は補欠で、自分が走っていたらと考えなかった時はない
Q2. 足は上げるものではなく下ろすものである
Q3. 大学に入り、何のためにやる練習かを考えて陸上するようになった
冷静沈着。走れなかった悔しさを箱根にぶつけ、優勝の力になりたい

高久 龍 経済学部 経済学科3年 たかく りゅう
Q1. 今年は故障が多かったので、箱根駅伝でしっかり結果を残したい
Q2. すべての言葉が印象的
Q3. メンバー争いが激しく、仲間同士がしっかりと意識し合える
箱根駅伝にすべてをぶつけて、笑顔で締めくくりたい

田口 雅也 経済学部 経済学科3年 たぐち まさや
Q1. 前回の箱根では1区で流れをつくれたが、出雲、全日本ではできず情けなかった
Q2. 気迫が足りない
Q3. チームワークがよく、層が厚いところ
挑戦。2年前の優勝の喜びをもう一度味わいたい!

淀川 弦太 経済学部 経済学科3年 よどかわ げんた
Q1. 前回の箱根は納得いく走りできなかった
Q2. 残食しないでしっかり食え
Q3. 常に優勝争いのできるチームで緊張感がある
倍返し!!

上村 和生 経済学部 経済学科2年 うえむら かずき
Q1. 応援して悔しかった。次は走ってやると思った
Q2. まだまだ弱い
Q3. 層の厚さ
箱根駅伝の優勝に貢献する

寺内 将人 ライフデザイン学部 健康スポーツ学科2年 てらうち まさと
Q1. 自分が戦力になっていないのが悔しかった
Q2. 自分の殻を破れ!!
Q3. 安定性が強み。強い先輩方と練習、そして生活できることがいい
2年生は服部だけじゃない!!

服部 勇馬 経済学部 経済学科2年 はっとり ゆうま
Q1. 終盤の走りが粘れていない
Q2. 覚悟を決めろ!!
Q3. 層の厚さ
脱却。もう2位は取りません

成瀬 雅俊 経済学部 経済学科1年 なるせ まさとし
Q1. 箱根で勝つためには後半の強化が欠かせない
Q2. 距離走だけでなく意味ないんだぞ
Q3. 長距離ほど強く、外さない強さ、安定感、選手層の厚さ
目標だった箱根駅伝に出場できるよう努力を続ける

服部 弾馬 経済学部 経済学科1年 はっとり はづま
Q1. 出雲も全日本も悔しい思いをしたので、箱根では優勝に貢献したい
Q2. 倍返しだ
Q3. あいさつ、掃除は一番だと思います
その一秒をけずりだせ

その一秒をけずりだせ

『陸上競技マガジン』などのライターとして活躍し、本学箱根駅伝初優勝時のエピソードをまとめた『魂の走り』(埼玉新聞社刊)などの著書がある本学卒業生の石井安里さん(2001年3月社会学部卒)に、前回の箱根駅伝から今日の鉄紺チームの成長を描いてもらいました。

エースが引っ張るチームづくり

2012年度の学生3大駅伝(出雲駅伝、全日本大学駅伝、箱根駅伝)はすべて2位で、無冠に終わった。そして今季、東洋大として初の3冠を目指したが、10月14日の出雲、11月3日の全日本で駒大に敗れ、5大会連続の2位。すでに3冠の夢は潰えたが、最終章の箱根にすべてを懸ける。

2012年の88回大会では、10時間51分36秒の大会新記録で圧勝したが、そのときも涙の全日本2位から、4年生のリーダーシップのもと、全員の力を結集して頂点に立った。当時の2年生が4年生になり、今では主力に。

彼らは入学時から東洋大史上最強と言われ、存在感を示してきた。

下級生の頃は、柏原竜二(現・富士通)らに引っ張られるように実力を伸ばし、双子の設楽啓太・悠太兄弟、大津顕杜が88回大会の優勝メンバーに名を連ねた。3年生になった昨季は、延藤潤と佐久間建が全日本に初出場、箱根で5区を走った定方俊樹は、1年時の出雲以来の駅伝出場だった。

最終学年を迎えるにあたり、酒井俊幸監督は、それまで学年主任を務めてきた小池寛明に代わり、エースの設楽啓太を主将に指名した。箱根駅

伝で敗れた翌日の1月4日、東洋大としては異例のスピードでの主将就任だった。かつての柏原のように、エースが背中を見せて引っ張ることでチームが変われるように、さらに啓太自身も成長できるように願っての決断だった。

リーダー役を務めたことのなかった啓太にとっては驚きだったが、「監督から『お前はエースだから』と言われて納得しましたし、自分の行動、生活意識をしっかりすることで、みんなも付いてきてくれると思いました」と、責任感を持ち、競技で結果を残すこ



7 10区間217.9kmを戦う箱根駅伝は総力戦。各選手が口をそろえる「選手層の厚さ」は、互いを高め合い、個々の底力を覚醒させるチームの伝統である

8 誰もが認めるエースに成長し、東洋大の顔となった設楽啓太主将と、兄の悠太とともにエースを背負ってきた弟・設楽悠太。箱根では、エースの意地をみせてくれるはずだ

9 陸上競技部を率いる酒井俊幸監督。「完敗」を宣言した日から、原点に戻り日々練習を重ね、チームをつくってきた。ここまでの大会を終え「このままでは終われない」と、箱根でのリベンジを誓った

とでチームを牽引してきた。

酒井監督によると、これまでにない発想で行動するなど、視野も広がり、新しい一面をのぞかせているという。

弟の悠太も、小池とともに副主将

の任に就いた。ある選手は、後輩が使った椅子を片付けている悠太を見て、下級生の頃との変化を感じ取り「自分もしっかりしなくては」と、気を引き締めたようだ。また、エースの設

楽兄弟が他の選手よりも多く走っている姿を見て、負けられないと危機感を持ったという。走りで見つめる設楽兄弟を仲間が支え、協力し合い、シーズン最後の駅伝を迎える。

一致団結、王座奪還へ

開幕戦の出雲は1区で出遅れ、5区で区間新記録をマークした服部勇馬(2年)が追い上げたが届かず。続く全日本では、酒井監督が「4年生を多く使うときは、狙っているとき」と5人の最上級生を起用。さらに、エントリーから外れた4年生6人全員をサポートとして現地に連れて行き、総力戦で挑んだが、出雲と同様にミスなかった駒大に屈した。

2つの駅伝を終え、設楽啓太は「走る選手だけでなく、サポートを含め、全員が高い意識を持たないと勝てな

い」と話した。2年生で、先輩たちとともに勝った喜びを知る啓太だからこそ、今の東洋大に足りないものを感じたのかもしれない。

この2年、勝てなかった理由として酒井監督が挙げたのは、「ラストでの粘り、気迫、1秒の積み重ね」。最後の2~3kmを淡々と走るか、必死にサポートをかけるかの違いは大きい。積み重ねれば、すぐに1分程度の差になってしまう。

全日本で6区を走った日下佳祐(4年)は「後半の2~3kmの走りで、10

秒も20秒も違ってしまふことを、身を持って感じた」と言い、1区のラスト2.5kmで30秒以上の差を付けられた設楽悠太も「最後に切り換えられなかった」と悔やんだ。まさに今季のテーマである、1秒をけずりだす走りができなかった。だが、戦力は充実している。あとは勝利への気迫だろう。

王座奪還に向けては、4年生の団結力とリーダーシップが不可欠。夏までは、順調に練習を積んだ選手、徐々に調子を上げた選手、故障していた選手など、状況はさまざまだったが、



1 第88回箱根駅伝では、大会新記録を樹立し優勝した。この記録に勝つためには、自分たちを越えていかなくてはならない

2 「最終学年がチームを引っ張ることを意識している」と大津顕杜。2年次から有力メンバーとして本学を牽引してきた1人である

3 定方俊樹は前回の箱根駅伝初出場で5区山登りを任された。注目されることを逆手に「楽しむ気持ちで挑んだ」という。箱根ではプレッシャーをも跳ね除ける平常心が試される

4 入学時から、大注目されている設楽啓太・悠太のツインエース。今回、最後の双子タスキリレーにも期待がかかる

5 黒姫夏合宿では、駅伝シーズンに向けての練習と、チームの雰囲気づくりを行った。ここでの練習が実戦に生きてくる大事な準備期間だ(写真提供:東洋大学スポーツ新聞編集部)

6 服部勇馬の左腕には「その一秒をけずりだせ」の文字。出雲、全日本にける強い決意が伝わる。服部は今年の出雲で区間新記録をマークした



10



11



12



13



14



15

10 毎年注目の集まる5区山登り。勝利を左右する『山』の強化は、どのチームも絶対条件としている。応援にも一層力が入る。写真は前回大会の5区タスキリレー

11 「納得のいく走りができなかった」と、自分の走りを振り返り、悔しさをにじませた淀川弦太。しかし、この1年間で着実に成長を重ねてきているのは確かだ

12 田口雅也は2大会について「不甲斐ない走り」と自らの走りを悔やむ。前回の箱根1区で魅せた快走を期待したい

13 「前を追うことだけを考えた」と、初駅伝を終えた日下佳祐は、優勝の難しさを口にした

14 箱根に向け“復活”の2文字を掲げた延藤潤。4年間の思いをぶつける

15 出雲で駅伝デビューした期待の新人・服部弾馬。兄・勇馬の後を追いかけて、東洋大へ入学した。「たくさんの方から応援してもらえることが嬉しい」と、走る喜びを体感している

それぞれに努力を重ねてきた。

全日本では、日下が4年目にして初の3大駅伝に出場。緊張したというが、小池や定方、佐久間からのメールに勇気付けられたとも。前回7区で快走した佐久間からは「俺でも区間賞を獲れたのだから」と励まされ、気が楽になったという。

定方は前回、山登りで日体大と早

大に逆転を許し、悔しい思いをした。だがその悔しさは、出場したからこそ味わえるものだと実感した。また今年、母校の川棚高校（長崎）での教育実習で、全校生徒を前に挨拶した際、高校1年生の弟・駿君が最前列でじっと話を聞いていたという。2週間の教育実習で、家族や恩師、故郷の人々が心から応援してくれていると再認識。自分

のためだと思うと妥協してしまうが、チームのため、応援してくれる人のためだと思うと頑張れると話す。

誰に聞いても、仲が良いと口をそろえる4年生たち。一方でライバル意識が強く、試合でも練習でも切磋琢磨してきた。勝つ喜びも、負ける悔しさも共有してきた4年間。集大成の箱根で、もう一度歓喜を味わえるだろうか。



箱根駅伝応援イベント スクールカラーでひとつになる！

12月12日(木)、白山キャンパスにて第90回箱根駅伝壮行会を開催します。その壮行会に合わせて、スクールカラーである「鉄紺」で学内が一体となり、箱根駅伝に出場する選手を応援するイベントを企画。壮行会当日に向けて、12月10日(火)～12日(木)の3日間連続で開催しています。イベント参加者には、さまざまな特典を用意。お楽しみに！

詳細は東洋大学公式Facebook「東洋大学 SPORTS」をチェックしてください。

